



環境づくりで、もっと楽しく！

## 思わず作りたくなる “仕掛け”がいっぱい

一步入れば、描いたり作ったりしたくなる。こどもの城の造形スタジオは、そんな場所です。この時期は、もちろん、クリスマスにもなったものが作れます。持って帰れるものは、出来上がった作品だけではないですよ。

造形スタジオに近くにつれて、子どもたちから制作意欲がどんどん湧いてきます。それもそのはず、テーマに合わせたいろいろな手作り展示や装飾がスタジオ周辺には置かれています。ここから造形スタッフの考える楽しい“仕掛け”が始まっています。

### 思わず「作りたい！」

入口の飾りを見てもすっかりクリスマス気分。いざ入ってみると、壁にドーンと大きなトナカイの

顔。その下では、子どもたちが自分で作ったマスクを顔に当てて鏡にうつしています。「そのマスク、作りたい！」よく見ると巨大トナカイもマ

スクをしていました（平成18年「クリスマススク」）。食べ物やテーマに展開した年のクリスマスでは、ちこそうがのつた帽子!?を作りました（平成20年「ク

写真左：クリスマススク  
中：クリスマスちこそうハット  
右：ちこそうハットのテーブル

クリスマスちこそうハット)。  
ちこそうのあるテーブルから頭を出すところ、クリスマスディナーの一部に。  
「食べちゃうぞー」と声をかけられ、子どもたちは大はしゃぎ。作りながらそれを見ていた子どもたちも、はやくテーブルに頭を出したいと一生懸命です。

### 作るまでを大切に

造形スタジオでは、プログラムの環境づくりを大切にしています。子どもたちが、制作に入るまでに見たり、体験する過程で、創造力が膨らみ、知らなかったことを知り、新たなイメージを持って、制作に入ることができる“仕掛け”を考えます。

### 「こども歳時記」

造形スタジオでは、年間を通した一つのテーマの中に「こども歳時記」と題し、節句など季節ごとのプログラムを行っています。歴史や由来など、この機会に伝えたいこともあります。季節行事には、みんなが共通してイメージできるものも多くあり、同時に子どもたちもなじみやすいので、ずんずん制作に入っていくのが利点です。

### 簡単な“仕掛け”いろいろ



大きな三角形を壁面に用意。クリスマスの装飾の中ではツリーに見えて、子どもたちはどんだん紙のオーナメントを飾っていました。



壁に小さな扉があると、つい開けてみたくなるもの。開けるとサンタさんからクリスマスのお話が。



指人形を作ったときは、四角い木の枠を用意。子どもたちが自由に演じる指人形の劇場ができあがりました。

### その部屋全部でプログラム

テーブルの上の制作だけではなく、まわりの環境も含めてプログラム。そんな環境で行ったプログラムで持ち帰るものは、作った作品だけではなく、驚きや体験、遊んだこと。お家に帰って、話したいことがいっぱいです。

### 切り抜く保存版「しろべい画」

#### “造形スタジオの環境づくり”

※「しろべい画」は、今月のテーマの“まとも”は切り抜いて、アート・ミュージック・サイエンスなど「こどもの城」の専門スタッフの知恵が詰まった百科事典になっています。

※「しろべい画」と「はかばかどらちゃん」は切り抜いて、アート・ミュージック・サイエンスなど「こどもの城」の専門スタッフの知恵が詰まった百科事典になっています。



## こどもの城 しろべい画 no.9

### 造形スタジオの環境づくり

#### アート

造形プログラムは、環境づくりが伴うとより豊かな活動になります。こどもの城の造形スタジオでは、＜展示＞＜体験＞＜制作＞の3つの要素による“ワークショップ”活動をもとに環境を組み立てています。

#### 3つの要素 展示・体験・制作

##### ＜展示＝みる＞

ヒントになる“もの”や、イメージにつながる装飾や資料、実際の作品例などを貼ったり展示する。部屋全体を飾るといふより、入口付近や制作中に目に入る壁面などが効果的。季節行事はみんなが共通してイメージできるものが多く、活用しやすい。

##### ＜体験＝さわる＞

視覚のみならず、五感を刺激。素材の材質に触れる。丸めたり、破いたり、ひっぱったり、叩いて音を出したり、開ける、のぞく、まわすなど、動作をともなう仕掛けを作っても楽しい。プログラムによっては、できた作品と組み合わせるコーナーを作るなど。

##### ＜制作＝つくる＞

見たり体験して得たイメージをもとに、制作に取りかかる。

＜展示＝みる＞＜体験＝さわる＞をして、イメージを膨らませ＜制作＝つくる＞。できた作品を展示したり、その場で遊ぶことで、これから作る子どもたちもまた触発される。そんな環境も出来上がります。

子どもたちに伝えたいこと、体験してもらいたいことを造形プログラムに込めています。＜制作＞はその一部です。



監修：造形課スタッフ 村橋貴博